

B—21 かびの分泌物の布への影響について

山口女短大 ○坂田 泰子
西 寿巳
戸村 礼子

1. 本研究は布にかびが生育すると、日数の経過するにつれて強力は次第に低下する。

この原因はかびの分泌する酵素，有機酸等の分泌物によるものといわれているが，更にこれを追求する目的のもとに行なったものである。

2. 試料には天然繊維，化学繊維など12種を用いた。培養液は Czapek 液の変法を用い，*Aspergillus oryzae*，*Aspergillus niger*，*Penicillium Q 176* の3種のかびを使用した。

上記培養液に布を浸漬した後，それぞれのかびを接種し，30°Cにて20日間放置し変化を測定した。

3. その結果，1) 毛，絹のたん白繊維はいずれのかびの場合にも著しく黄褐変した。ナイロンも多少その傾

向がみられた。他の繊維には殆んど変化はなかった。

2) 強力については、布に直接かびを接種した場合ほどの低下はみられなかった。この原因は、培養日数が少ないこと、液中のために酸素が存在しないこと、培養液の液量を多くしたために酵素、有機酸など希釈されたことなどによると思われる。

合成繊維は吸水性が乏しいので、その影響が少ないものと考えられる。

3) その他有機酸、酵素などの影響についても報告する。